



▲袋に入ったクロアワビを大事そうに手渡す水産高校の生徒

### 使用済み昆布で育てたクロアワビの稚貝を放流 3年後の収穫を願って

市と宗像漁協津屋崎支所、県立水産高校は、本来廃棄される学校給食の使用済み昆布で育てたクロアワビの稚貝を6月から中間育成し、2月13日に放流しました。6月時点で約1cmだった稚貝のうち、3cm以上に成長した151匹を水産高校マリン技術コースの3年生が岩陰に1匹ずつ吸着させていきました。1cm時点で放流せずに中間育成をすることでクロアワビの資源量を増やそうという取り組みで、3年後、取れる大きさになるまでの生存率は2、3割。廃棄物の減量と資源の循環・有効活用を通じた漁業振興の取り組みはこれからも続きます。

### 津屋崎小学校3年生と給食食材生産者交流会 給食がさらにおいしくなった!?

給食食材の生産者と交流し、児童の食材への感謝の気持ちを育むことを目的とした交流会を1月23日に津屋崎小学校で行いました。

あんずの里市職員、漁師や農家、栄養教諭それぞれから野菜の名前を当てるクイズや紙芝居での野菜の栄養価に関する話がありました。野菜について話を聞いた後は、生産者の皆さんと一緒に給食を食べました。

イチゴに関するクイズで「あまおう」の名前の由来を尋ねられると、児童は「あまい」や「まるい」などと元気な声で答えていました。



▲紙芝居を使って分かりやすく栄養についての話をする栄養教諭



▲参加者に地域デビューを促すキッカケラボのスタッフ

### ふくつ地域デビュー講座 退職後の豊かな福津ライフのために

退職後の過ごし方を悩んでいる人などに向けた講座「ふくつ地域デビュー講座」を、2月9日に市未来共創センターキッカケラボで開催しました。

「地域デビューが難しいとは思わないが、きっかけがない」。そう話す参加者はこれまで会社に勤め、地域と関わる機会がなかったと話していました。

キッカケラボのスタッフは、参加者にさまざまな問い掛けをしながら、ボランティアや地域活動のノウハウなどを説明。その説明を受けて「何か活動してみたいと思った」と話す参加者もいて、地域デビューへの新たなきっかけが生まれていました。

### 福間東中学校の募金活動 福間東中から「何かできることを」

「能登半島地震で被災した人たちのために何かできることをしたい」という思いで、福間東中学校生徒会を中心に、1月23日から1月25日の3日間、募金活動が行われました。

福間東中学校やJR東福間駅などで、生徒や保護者、地域のかたから義援金を募り、集まった義援金14万663円が1月30日、生徒会の代表生徒から原崎市長に預けられました。預かった義援金は日本赤十字社を通して、被災地に送付しました。

福間東中学校からの力強いエールが、被災した全ての人にきっと届いたはずですよ。



▲JR東福間駅で募金活動を行う福間東中学校生徒会の皆さん



発行月に1歳の誕生日を迎える赤ちゃんの写真を募集。掲載を希望する人はプリントした写真を市子育て支援センター「なかよし」に持参するか、市公式ホームページでも受け付けています。持参の場合、写真はプリントしたものに限りです。データの持ち込みは受け付けられません。

**1歳を迎える赤ちゃんの写真を募集**

毎月先着24人で、6月生まれの赤ちゃんは4月17日(水)が受付期限です。  
受付、問い合わせ 市子育て支援センター「なかよし」(ふくとぴあ) ☎35・8382

休館日 月曜日、第2土曜日  
それに続く日曜日、祝日  
▶写真申込フォーム

### 市民団体による手縫いの雑巾541枚寄贈 まごころを30年届け続けて

ボランティア団体である「ピーチクリーンズ」「さくらんぼグループ」「マスカットグループ」「さざなみ会」の皆さんが2月16日に市役所を訪れ、手縫いの雑巾を市に寄贈しました。皆さんは約30年間、雑巾の寄贈を続けていて、この雑巾は市内の保育所や幼稚園、小学校で活用しています。



▲雑巾を寄贈した市民団体の皆さんと原崎市長

### 宗像水光会総合病院主催鼎談イベント 安心して暮らせる魅力あるまちづくりを

宗像水光会総合病院長、宗像市長(代理で副市長)、福津市長の三者による話し合い、鼎談会が2月3日にイオンモール福津で行われました。災害対応や医療・福祉、環境保全など、まちづくりについての考え方を知ることができる貴重な時間になりました。



▲三者による連携の大切さなどについて話す原崎市長